

銀行名	清水銀行
タイトル	事業継続困難な介護施設事業者に対する事業承継支援
取組み内容	<p><b>【動機(経緯)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B社は入居者を数十名受け入れている介護施設を運営。</li> <li>・ 当行と融資取引はなく、給与振込等の預金取引のみがあった。</li> <li>・ 一定の入居率は確保していたものの、多額の借入金返済により従前より資金繰りに窮しており、従業員に対する給与支払も困難な状況に陥っていた。</li> <li>・ 加えて創業者の死亡も重なり、現状の体制による事業継続は困難であると考え、当行とB社による協議を行い、別事業者に事業を譲渡することとなった。</li> <li>・ 当行はB社とアドバイザー契約を結び、支援を行っていくこととなった。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当行では、当行取引先の介護事業者を中心に交渉を行った結果、介護保険法の改正を見据え、同事業に関心を示した異業種を営むC社が浮上。</li> <li>・ 譲渡価格や従業員の処遇等についてB社の立場にて、C社の代理人(コンサル会社)と条件交渉を実施。</li> <li>・ 法務、税務、労務等に関しては当行と提携する外部機関の支援を仰ぎながら交渉を進めていった結果、事業譲渡契約締結となった。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B社は、従業員の雇用が守られたほか、入居者が引き続き介護を受けられる環境を維持することができた。</li> <li>・ C社については、0からではない形で新事業を立ち上げることができた。</li> <li>・ 当行においては、施設利用者及び地域のお客さまの支援に繋がる取り組みを行った。</li> </ul>

銀行名	清水銀行
タイトル	海外事業の拡大を目指すお客様に対する国際協力銀行との協調支援
取組み内容	<p><b>【動機(経緯)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社は、健康食品等の製造を行っている。</li> <li>・ 従前より主に大手メーカー向けのOEM生産を行っていたが、将来的な海外需要拡大を見込み、数年前に新興国のZ国に現地法人を設立。</li> <li>・ Z国では現地企業向けの製品を製造し、販路の拡大を図っていた。健康に対する関心の高まりから、A社に対する需要が急増。</li> <li>・ 現行の設備体制では増加する需要への対応が困難となるため、設備増設を計画。</li> <li>・ 増設にあたり資金調達の面で当行に対して相談あり。</li> </ul> <p><b>【取組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A社の海外現地法人は、現地企業(非日系企業)との取引がメインであるため、現地通貨建てでの売上代金の回収をしていた。</li> <li>・ 売上増加に伴い、短期の運転資金対応については、為替リスクも考慮し、現地の金融機関から現地通貨での調達を行っていた。</li> <li>・ また、外貨通貨建てでの長期資金の調達が困難な状況であったが、現地法人単体での業績が軌道に乗り始めてきていたことから、単独で資金調達を行う仕組みを構築したい意向があった。</li> <li>・ 以上を踏まえ、平成26年6月6日に業務提携を締結した国際協力銀行との協調による現地通貨建ての直接融資のスキームにて設備資金としての支援を行った。</li> </ul> <p><b>【取組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本件取組みにより、A社は設備資金を長期、かつ為替リスクを回避する形で調達することができ、経営の安定化につながった。</li> <li>・ 増産体制のための設備投資により、稼働後の売上高増加が見込まれる。</li> <li>・ 当行は本件支援を契機にA社とのリレーションを構築することができた。今後もA社で予定されている事業計画に対して積極的に関与していくことで、A社に対する金融支援を含めたソリューション支援を行っていく。</li> </ul>

銀行名	清水銀行
タイトル	静岡県立大学経営情報学部 記念講演「地域金融論」開催
取り組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の金融・経済に関する実践的な知識の習得に資する講義を提供することで、地域の金融教育の普及に貢献し、将来の地域社会の発展を担う人材を育成する。</li> <li>・ 「地域金融論」の講義を通じて、学生が金融機関、特に地域金融機関の業務について知識を深めると共に職業について考える機会を持つことができる場を提供し、新たな職業観の形成や就業意識を高めることへつなげていく。</li> </ul> <p><b>【取り組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本講義は金融経済教育の取り組みの一環として、平成 17 年度より毎年開催している。</li> <li>・ 平成 26 年度で開講 10 周年を迎え、講義最終日には豊島頭取を講師とする記念講演を行った。</li> <li>・ 平成 26 年度における講義は、79 名の受講生に対し、平成 26 年 10 月から平成 27 年 2 月の間に全 13 回開講した。また、カリキュラムは以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 最近の経済環境について</li> <li>◆ 金融と地方銀行の役割</li> <li>◆ 決算書の見方</li> <li>◆ 地域密着型金融に基づく融資推進～創業期・成長期～</li> <li>◆ 地域密着型金融に基づく融資推進～成熟期・再生期～</li> <li>◆ 静岡県中小企業の海外進出と銀行のサポート、今伸びている静岡県中小企業「成長分野」と銀行のサポート</li> <li>◆ 新聞の読み方とマーケット解説（株・債券/円高・円安）</li> <li>◆ ライフプラン・マネープランの立て方について</li> <li>◆ 資産形成と資産運用</li> <li>◆ ローンについて</li> <li>◆ 活躍する卒業生</li> <li>◆ コンプライアンス、就職活動に役立つ CS・マナー</li> <li>◆ 豊島頭取による記念講演</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【取り組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業評価アンケートの結果では、本講義を受講した学生の 97%が「講義内容に興味・関心を持てた」と回答している。</li> <li>・ 「大学で学ぶ会計学が、実利社会で如何に活かされるか」というテーマに沿いストーリーを持たせたカリキュラムを提供すると共に、地域社会で働くことの大切さを学ぶことができる講義として大学との連携を図ることで、「社会に出た自分」を具体的にイメージできる講義として学生からも好評を得ている。</li> </ul>

銀行名	清水銀行
タイトル	三保松原植林・清掃活動
取り組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域の資産を守るため、地域金融機関として地元を誇る富士山の世界文化遺産と共に構成資産に登録されている「三保松原」の景観維持および保全と再生を目指す。</li><li>・ 松枯れに強い抵抗性クロマツを植林することで、当行が景観を次世代へ受け継ぐ担い手となる。</li></ul> <p><b>【取り組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動日：平成26年12月6日</li><li>・ 活動面積：8.7ha</li><li>・ 活動内容：植林（抵抗性クロマツ植林：70本） 活動区域内の清掃</li><li>・ 清掃参加者数：65人（当行内定者63人、本部分員2人）</li></ul> <p><b>【取り組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 取り組みは毎年行っており、植林した松は合計で1,550本にのぼる。</li><li>・ これにより、三保松原の景観の維持と松原の保全・再生に貢献している。</li></ul>

銀行名	清水銀行
タイトル	第 47 回清水銀行杯フレンドリーシティ清水少年少女サッカー大会
取り組み内容	<p><b>【動機（経緯）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちがスポーツに生き生きと取り組めるよう、地域におけるスポーツの振興を図り、上記大会に協賛している。</li> </ul> <p><b>【取り組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 27 年 1 月 25 日に開催された決勝戦では、清水エスパルスのパルちゃんが選手入場の先導や優勝・準優勝チームと記念撮影を実施した。</li> <li>併せて、エスパルスアンバサダーの齊藤俊秀氏、清水エスパルス OB の市川大祐氏、エスパルスサッカースクール初の女性コーチである小倉氏によるサッカー教室を開催した。</li> <li>優勝チームには賞状・優勝杯に加えて、副賞としてエスパルス開幕戦（清水銀行デー：平成 27 年 3 月 8 日(日)）のチケット（12 チーム 192 人分）を贈呈。</li> <li>清水銀行デー当日は、優勝チームの記念写真を IAI スタジアム日本平のアストロビジョンで紹介した。</li> </ul> <p><b>【取り組みの効果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本大会は「清水銀行杯」として第 26 回（平成 6 年 1 月）大会より 21 年間 21 回にわたり開催している。</li> <li>本大会は参加制限がなく、誰でも参加できるよう運営されており、サッカーに取り組む少年少女の裾野拡大に一役買っている。</li> <li>地域の発展や青少年育成につながる CSR 活動であり、「サッカーの街清水」の発信（本大会は SBS テレビ「sole いいね！」にて放送）にも貢献している。</li> </ul>